

事業報告書

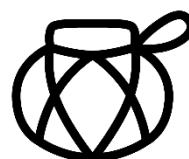
TAKETOMIJMA

REGIONAL

2021 年度

FOUNDATION

ANNUAL REPORT



一般財団法人
竹富島地域
自然資産財団

2021



目 次

ご挨拶	P 03
竹富島	P 04
決算概要	P 05～06
入域料収受実績	P 07
島内賛同事業所一覧	P 08
取り組み経緯	P 09～13
活動報告（地域計画概要）	P 14
（防風林の植林）	P 15
（耕作放棄地の再生）	P 16
（海浜清掃）	P 17
（ゴミ箱問題の解決）	P 18
（観光に関するルール制定）	P 19
（外来種の駆除と処分）	P 20
（島の現状活動のPR）	P 21～23
（伝統的建築技術の継承）	P 24
（島の子供への環境教育）	P 25
（島の生態系調査）	P 26
広報事業	P 27～30
組織概要	P 31
寄付のお願い	P 32

Greeting

ご挨拶

2021年度の一般財団法人竹富島地域自然資産財団年次報告書発刊にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は3年目となりました。この間にワクチン接種が進展し経口治療薬の使用も始まろうとしています。治療を受けておられる皆様のご回復をお祈り申し上げると共に、これまでにお亡くなりになられた皆様に心よりお悔やみ申し上げます。また、医療従事者の皆様、支援に取り組んでおられる全ての皆様に感謝申し上げます。

当財団におきましても、財団理事はじめ関係者も感染しないことを念頭に、感染防止策を実施するとともに、活動が制限される中、可能な範囲で環境保全活動を行ってまいりました。しかし、観光客激減による入域料の減収が長引いたことで財団の運営自体もままならない状態に見舞われております。新型コロナウイルス感染症の収束には、まだ時間がかかるとは思いますが、財団の使命を果たしていくため、コロナ対応期間中の経験と知見も活かしながら、自然環境保全活動および自然環境トラスト活動を進めていこうと考えております。

引き続き、竹富島地域自然資産地域計画に基づき、竹富島を訪れる皆様方より協力金をお預かりし、この協力金を原資に島の再生を図ってまいります。何卒ご理解ご協力を賜わりますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般財団法人竹富島地域自然資産財団

理事長 上勢頭 篤

Taketomijima



竹富島

竹富島は、東京から南西に約2000キロ、沖縄本島からも約400キロ離れた場所にある周囲9.2km、人口わずか360名程度の小さな島です。沖縄の原風景が色濃く残る集落に美しいビーチを求めて年間約50万人もの観光客が訪れており、島では近年、オーバーツーリズムや観光開発など多くの問題に頭を悩ませています。そこで私たちは、これらの問題の解決に望むべく、2019年5月一般財団法人 竹富島地域自然資産財団を立ち上げました。当財団では来島者から入域料を募ることで島の保全活動や財団運営を行っています。

Financial Report

決算概要

今期の入域料収入約730万円は第1期比の76.1%と
未だにコロナの影響を色濃く受け低水準となっております。
反面、竹富島入域者数からの徴収率は緩やかながら向上しています。

貸借対照表

令和4年3月31日現在

科 目	当年度		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	4,081,728		
未収金	376,200		
仮払金	1,723		
流動資産合計			4,459,651
2 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	3,000,000		
基本財産合計		3,000,000	
(2) 特定資産			
トラスト事業資産	2,310,000		
特定資産合計		2,310,000	
(3) その他固定資産			
什器備品	62,080		
機械装置	2,035,860	0	
その他固定資産合計		2,097,940	
固定資産合計			7,407,940
資産合計			11,867,591
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	47,685		
預り金	28,565		
未払費用	115,000		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		261,250	
負債合計			261,250
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
拠出金	3,000,000		
寄付金	1,210,000		
指定正味財産合計		4,210,000	
(うち、基本財産への充当額)		(3,000,000)	
(うち、特定資産への充当額)		(1,210,000)	
2 一般正味財産		7,396,341	
(うち、特定資産への充当額)		(1,100,000)	
正味財産合計			11,606,341
負債及び正味財産合計			11,867,591

Financial Report

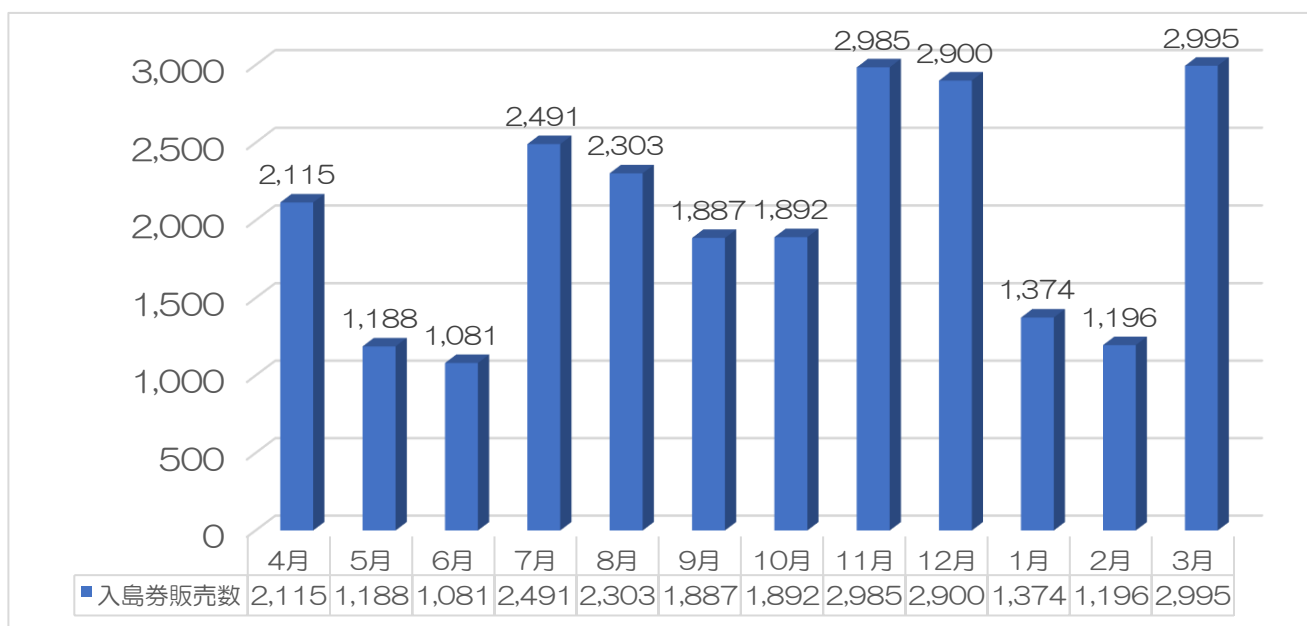
正味財産増減計算書

令和4年3月31日現在

科目	当年度		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
入島料収入	7,322,100		
受取補助金等	32,000		
受取寄付金	112,397		
一般寄付金	112,397		
雑収益	10,344		
受取利息	60		
雑収益	10,284		
経常収益計		7,476,841	
(2) 経常費用			
事業費	3,233,418		
旅費交通費	15,620		
通信運搬費	2,594		
消耗什器備品費	66,363		
消耗品費	142,025		
広告宣伝費	352,235		
燃料費	5,150		
賃借料	1,247,680		
保険料	206,630		
諸謝金	30,000		
新聞図書費	25,532		
支払手数料	382,723		
事務用品費	51,446		
減価償却費	678,620		
雑費	26,800		
管理費	2,339,738		
役員報酬	510,000		
給料手当	550,000		
諸謝金	110,400		
福利厚生費	5,000		
会議費	12,710		
旅費交通費	239,709		
通信運搬費	139,227		
消耗什器備品費	0		
消耗品費	2,757		
広告宣伝費	8,505		
光熱水料費	112,616		
賃借料	18,500		
事務用品費	82,562		
租税公課	10,487		
接待交際費	2,592		
支払手数料	501,180		
減価償却費	30,993		
雑費	2,500		
経常費用計		5,573,156	
当期経常増減額			1,903,685
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0		
(2) 経常外費用	0		
法人税等	70,000		
法人県民税	20,000		
法人市民税	50,000		
経常外費用計	70,000		
当期経常外増減額	△ 70,000		
当期一般正味財産増減額			1,833,685
一般正味財産期首残高			5,262,656
一般正味財産期末残高			7,096,341
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
拠出金	0		
トラスト寄付金等	190,000		
当期指定正味財産増減額			190,000
指定正味財産期首残高			4,020,000
指定正味財産期末残高			4,210,000
III 正味財産期末残高			11,606,341

入域料收受実績

	入域観光客(名)	入域料(円)	支払数(回)	収受率(%)	備考
4月	17,174	634,500	2,115	12.3	4/12~「まん延防止等重点措置」
5月	10,564	356,400	1,188	11.2	5/23~「緊急事態措置」
6月	4,933	324,300	1,081	21.9	
7月	9,484	747,300	2,491	26.3	
8月	16,411	690,900	2,303	14.0	
9月	10,172	566,100	1,887	18.6	~9/30「緊急事態措置」
10月	15,795	567,600	1,892	11.9	
11月	21,936	895,500	2,985	13.6	
12月	22,787	870,000	2,900	12.7	
1月	13,701	412,200	1,374	10.0	1/9~「まん延防止等重点措置」
2月	6,403	358,800	1,196	18.6	~2/20「まん延防止等重点措置」
3月	28,700	898,500	2,995	10.4	



財団の活動は、入域料や寄付を頂いた方々に支えられています。
また、入域料の収受は島内企業や団体のご協力により行われています。
皆様の温かいご支援に対し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

入島券販売取扱事業所一覧

2022.03.31.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
NPOたきどうん	民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにゃ	Bar 月灯り
新田観光	民宿 新田荘	星のや竹富島	アイランド	友利レンタサイクル

島内賛同事業所一覧

2022.03.31.現在

民宿 泉屋	民宿 内盛荘	民宿 大浜荘	手作り工房 KUMA	アトリエ 五香屋
民宿 小浜荘	高那旅館	茶屋たかにゃ	Bar 月灯り	新田観光
民宿 新田荘	(有) 竹富島交通	喜宝院菟集館	NPOたきどうん	丸ハレンタサイクル
レンタサイクル竹富	ぼちサイクル	嶺本レンタサイクル	南西観光株式会社	内盛商店
海風～シューカジ～	若竹丸	やど家 たけの子	たきどうん	イナフク
とも倉	縄文や	アイランド	まうていや	竹富民芸館
民芸喫茶マキ	たるりや	そば処 竹の子	食事処 やらぼ	ガーデンあさひ
ひまわり	やまもり食堂	民宿 マキ荘	民宿 松竹荘	パーラターミ
民宿 なかもり荘	Cago			
一日一組の宿 すかぶら	染織工房 Boo-House	HIMAWARI WORKS (株)	HaaYa nagomi-café	くちゅ& パラダイスカフェ

※島内賛同事業所とは説明会等に参加して賛同書を頂けた事業所を指す

寄付者一覧

2022.03.31.現在

サカイ マサユキ 様	カンキ キヨコ 様	オノ カズコ 様	シミズ コウジ 様
やいまSDGsシンポジウム 実行委員会 様			

物品寄付者一覧

2022.03.31.現在

タナカ アイコ 様	クボタ アヤ 様	シマナカ ユミコ 様	ウチモリ アサカ 様
カメイ ヤスノブ 様	トミモト マモル 様	オオヤマ ミツコ 様	アヨイ 様
イノマタ ヒトミ 様	オオヤマ エイイチ 様	カフグチ ヒロシ 様	インダ アイ 様
サカイ マサユキ 様			

Activities Results

当財団の活動は「地域自然資産法」に基づき竹富町が作成した「竹富島地域自然資産地域計画」に沿って行われています。

2021年度取り組み経緯

月	日	会議・周知広報	保全活動
4月	2日	SDGs会議（星のや・川平公民館・日テレ）	
	4日		粟畑に小豆を播く（カンナジ）
	7日		モチ麦の収穫（カンナジ）
			グックの修復（清明御嶽）
	9日		除草と耕起（カンナジ）
	13日		瓦葺き用池を拡大（旧与那國家）
	15日	生物・植物学習ツアー検討会	
	16日		フクギ・キャンギ 苗の除草（事務所）
	19日		ガヤ種子の採取
	21日		瓦葺き用土の練込み（旧与那國家）
	23日	まいふなツアー対応	
		トラスト検討会	
	24日	パークボランティア総会（環境省石垣）	
	26日		ガヤ畑予定地の開墾
5月	11日		伝統作物を作付け（小中学校）
	13日	耕作放棄地活用中長期計画（星のや・JA）	
	14日		魚垣再生についての調査（カイジ）
	16日		クマミ畑の除草（カンナジ）
	17日		瓦葺き用土の練込み（旧与那國家）
	19日	財団の財産目録の作成・確認	
	26日	SDGsシンポジウム開催に向けた意見交換会	フクギ・キャンギ苗の除草
	28日	財団監査	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
6月	3日		ガヤ畑予定地の開墾
	10日		一周道路/竹富港フクギの除草作業
	11日	定例理事会	瓦葺き用土の練込み（旧与那國家）
	13日		粟の収穫（カンナ-ジ）
			海浜清掃
	14日	トラスト検討会議	海洋漂着ゴミ分別、整理
	17日	まいふなツアー取材	
	18日		工務工房倉庫の古材移動作業
	21日	令和3年度評議員会	
	28日	財団・星のや定例会	工務工房倉庫の古材移動作業
	29日	役場との協議（入域料、集落支援員）	
30日		瓦葺き用土池合体（旧与那國家）	
7月	3日	SDGsシンポジウム開催に向けた意見交換会	
	6日		ガヤ畑予定地のギンネム 駆除
	7日	竹富町頑張る地域応援プロジェクト採択	
	8日	三好協力隊業務引き継ぎ会議	
	9日	農泊推進研究会	
	12日	ウッドチップー贈呈式（大山栄一氏寄贈）	
	19日	定例理事会	
	20日		フクギの除草
	24日		台風後清掃（港・コンドイ浜）
	25日		ホーシ道清掃
	27日		粟畑の除草作業（カンナ-ジ）
	30日	理事会資料を評議員に配布	

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
8月	2日		祭祀供物WS用プランター制作
	4日	財団設立者・協力事業者等へ年次報告書発送	
	6日		瓦葺き用池除草作業（旧与那國家）
	8日	ウッドチップパー利用検討会	
	9日		港ゴミ箱改良
	10日	収益事業検討会	
	18日	島内観光休業のSNS発信/石垣港ポスター設置	海洋漂着ごみの分別
			ペットボトルの減容（圧縮）
	19日	JTA機内誌「coral way」財団の原稿入稿	
	21日		ウッドチップ-外来種駆除（アイヤル道）
	24日	市民憲章石垣市会長の表敬訪問	
	25日		粟の精穀作業（カンナ-ジ）
	27日		緑豆のガラ飛ばし（カンナ-ジ）
31日		小中学生 瓦土踏み（旧与那國家）	
9月	1日	やいまSDG'sシンポジウム会議	
	6日		星のや粟の精穀WS
	10日		小豆の収穫（カンナ-ジ）
	13日		台風後清掃（コンドイ浜）
	14日		海洋漂着ゴミ分別、整理
	15日		落花生の収穫（カンナ-ジ）
	16日	カンナージ畑の運用検討会	
	27日	サンゴ礁フレンドシップ会議	フクギの除草
	29日		カンナージ畑の測地作業
10月	4日	まちなか探検ツアー企画会議	
	11日		台風後の清掃
	19日	環境省沖縄奄美自然環境事務所新所長 来所	
	24日	市民憲章全国大会	
	29日		草焼きと漉き込み（カンナ-ジ）
	30日		ピンの植え付け（カンナ-ジ）

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
11月	1日	環境省（岡野氏、山本氏、大嶽氏）会議	祭祀供物WS用プランター制作
	2日		作付け計画（カンナ-ジ）
	3日		修学旅行に伴う島内ゴミ拾い
	5日		畑草刈り（カンナ-ジ）
	8日	中間監査	
	10日		一周道路/竹富港フクギの除草作業
	12日		全面耕起、枝木処理（カンナ-ジ）
	16日		石除去作業（カンナ-ジ）
	20日		麦の種まき（カンナ-ジ）
	21日	やいまSDGsシンポジウム開催	
	29日	第6回竹富島地域自然資産運営協議会	
	30日	海洋プラスチックのアップサイクル視察	
12月	13日		麦の植え付け（カンナ-ジ）
	18日		粟と大豆の植え付け（カンナ-ジ）
	24日		麦畑の除草（カンナ-ジ）
	25日	旧与那国家住宅指定管理検討会	
	27日	財団事務所屋根崩れ検証	
	28日	星のやパートナーシップ意見交換会	
1月	6日	重要文化財旧与那国家住宅指定管理者応募	
	9日		海浜清掃（キトッチ）
	11日		漂着ペットボトルの減容
	17日	キャンギ植樹検討	
	19日		フクギ植樹（環状線沿い）
	21日	やいまSDGsシンポジウム実行委員会より10万円寄付	
	24日	石西礁湖自然再生協議会サンゴ認証会議	フクギ周りの除草（環状線沿い）
	25日	ジョ-ジアタウン交流会（国際交流基金アジアセンター）	
	28日	沖縄Maas会議	除草作業（カンナ-ジ）
	29日	気候講演会	
	31日		海洋漂着ゴミの分別、発送

Activities Results

月	日	会議・周知広報	保全活動
2月	2日	竹富伝統の輪作についてヒアリング	
	9日	旧与那国家住宅現状確認	
	10日	石西礁湖自然再生協議会	
	14日	石西礁湖自然再生協議会	
	15日	財団広報誌（第10号）発行	
	16日		ペットボトルキャップ回収開始
	21日	竹富町地域おこし協力隊採用面接試験	
	24日	沖縄MaaS退会手続き完了	
	25日	石西礁湖自然再生協議会	軽石除去作業（竹富港）※公民館主催
3月	13日		粟の種まき/ココナツ畑除草（カナヅ）
	18日	玉木氏（東京農業大学）による講演	
	24日	事務所屋根修理作業	
	25日	竹富島地域自然資産運営協議会開催 入島料がチャージ設置（友利のサイクル）	
	27日	サンゴ活動家山崎志緒さん訪問	ペットボトルの減容
	28日		フクギの除草
	6日	竹富島資料映像撮影 （北海道大学、岡山理科大学）	
	9日	竹富町へ要請書提出	

竹富島地域自然資産地域計画概要

目的

1. 亜熱帯の自然と島民の暮らしが育んだ竹富島の貴重な生態系と農村集落景観を保全・再生します。
2. 目的1を達成するための調査研究、技術の継承、人材育成を推進するとともに、必要な協力体制と財源を確保します。

事業内容

- ①生態系と農村集落景観の保全・再生事業
 - ◆島民の暮らしによる自然利用（生活、農業、文化等）の継承・復活事業
 - ◇植生維持・再生
 - ◇耕作地再生
 - ◇水辺再生
 - ◇景観維持・美化
 - ◇海域再利用
 - ◇自主利用ルール制定・実施
 - ◆外来生物駆除・島の暮らしと関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業
 - ◇外来生物駆除
 - ◇植生再生
- ②調査研究、技術継承・人材育成、協力体制構築事業
 - ◆調査研究、モニタリング事業
 - ◇陸域生態系の調査研究
 - ◇海域・海岸生態系の調査研究
 - ◇島材の利活用方法の調査研究
 - ◇地域自然環境保全等事業の効果検証
 - ◆技術継承・担い手育成事業
 - ◇自然環境保全活動技術継承・リーダー育成
 - ◇島材活用技術継承・リーダー育成
 - ◇島の自然と文化伝承者育成
 - ◆周知・広報事業
 - ◇広報誌発行
 - ◇ホームページによる周知・広報
 - ◇注意・案内板の設置
 - ◇協力要請・島内案内ポスター・チラシ等の発行

Action

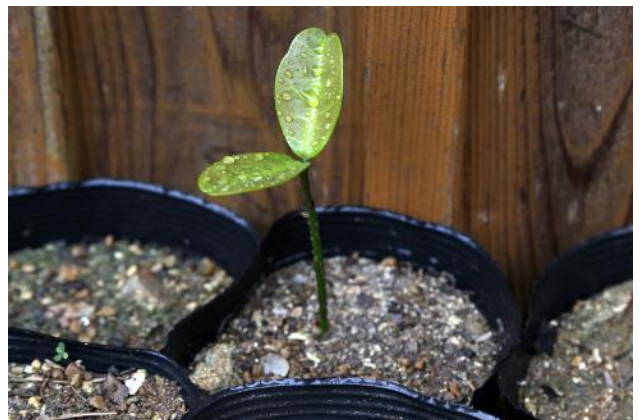
島民の暮らしによる自然利用
(生活、農業、文化等)の継承・復活事業

植生維持・再生

防風林の植林

目的：環境変化や経年劣化。行政サポートや住民意識の低下により御嶽の森や防風林の植林が減少し、まちなみの輪郭部を形成する防風林植林が急務であることから防風林の植林を行う。

活動：一昨年度より管理をしているフクギ苗の植樹および水やりや除草作業を行っています。草刈りの際、新たな雑草の生育を阻害する効果を期待して、フクギ周りの低い芝系の植物などはあえて残して育成状況を見る実験をしています。また昨年度から始めたフクギとキャンギ（イヌマキ）のポットでの育成も順調に進んでおり、島民から苗がほしいという声も出てくるなど島内でも植林の輪が広がりつつあります。



耕作地再生

耕作放棄地の再生

目的：竹富島には耕作が行われなくなり放置された農地が多くある。全国的に耕作放棄地の増加による景観の悪化や生態系への影響、伝統農法の消失が問題視されている。さらに竹富島では祭祀に関わる供物が島内で生産できなくなってきていることなどが懸念されており、この状況を打破するため2019年より活動を開始した。

活動：今年度よりパートナーシップ協定を結んだ星のや竹富島と共同での耕作放棄地の再生作業を行っています。粟や大豆、緑豆（クマミ）落花生（ジーマミ）島ニンニク（ピン）の植付けや収穫を行いました。古者に教わりながら小豆を苗の列と列の間に植えるという、種子取祭で歌われるユークイ唄にも書かれている農法や昔ながらの道具を使った粟の脱穀を行うなど竹富島の伝統的農法を学びました。



海浜清掃

目的：竹富島は3つの集落に分かれている。それぞれの集落が担当する海浜エリアがあり、定期的な清掃作業を行っているが、間に合わないほどの海洋漂着ゴミが流れついている。景観だけでなく生物や環境への負荷を軽減するためにも海浜清掃を行う。

活動：台風後のコンドイ浜や竹富東港の清掃作業や竹富小中学校と連携した海洋ゴミステーションの制作、漂着ペットボトルの減容など活動は多岐にわたりました。本来、財団で行う予定だった海浜清掃は今年度設立された「エシカルアイランド竹富（代表：上勢頭巧）」の活動で行い、集めた漂着ごみを財団ホールで分別保管。ペットボトルなどは減容作業を行い一定量溜まった時点で石垣島などに輸送していきます。



景観維持・美化

ゴミ問題の解決

目的：竹富島ではゴミ処理施設の対応能力オーバーという問題から、ほとんどゴミ箱の設置がない。これまで来島者の方々へはゴミの持ち帰りを推奨していたが、ポイ捨てが散見される上、ゴミを捨てた方が捨てる場所もないという問題点もありその解消のためゴミ箱の設置と環境保全の啓蒙を行う。

活動：昨年度から引き続き、竹富港に設置したごみ箱の管理を行っています。ゴミ箱の設置により島内（特に港周辺）での不法投棄は確実に減っています。ただし、分別の向上を促すためゴミ箱自体の改良を行っている一方、未だに分別せずに捨てる方が多く見られます。また、新たな試みとして家庭内で出たペットボトルの蓋を回収しビーチクリーン用のポリ袋を作成する循環型再生プロジェクトを開始しました。



外来生物駆除・島の暮らしと 関わりの深い植物の植栽による生態系再生事業

外来生物駆除

外来種の駆除と処分

目的：ギンネムをはじめとする外来種を伐採などの方法により、島の暮らしと関わりの深い植物の減少を防ぐ。

活動：ギンネムなどに覆われ見えなくなっているアイヤル道のアジラ保全のため外来種駆除を行いました。草刈り機やチェーンソーなどを使い道沿いにくっそうと茂る外来種植物などを伐採しました。今年度からウッドチッパー（大山栄一氏寄贈）を利用し、現場で伐採した枝木を粉碎していきます。粉碎されたウッドチップは、腐敗させた後、肥料として使っています。



Action

周知・広報事業

協力要請・島内案内ホ°スター・チラシ等の発行

島の現状活動のPR①

目的：来島者や島民が活動への理解を深められるよう、様々なメディアで発信を行う。

活動：10月に石垣市で開催された「市民憲章運動推進第55回全国大会」に理事が登壇し竹富島憲章や入域料に関する講演を行いました。11月に開催された「第1回 やいまSDGsシンポジウム～THE EARTH VOICE」ではパネリストとして登壇し財団設立の意義や入域料導入の経緯の説明しました。また会場に展示ブースを設け財団の活動や入域料に関する周知広報をしました。さらに12月には「竹富町教育サミット」にて八重山の子ども達に向けて財団の自然環境保全活動の紹介をしました。



協力要請・島内案内ホ^oスター・チラシ等の発行

島の現状活動のPR②

目的：来島者や島民が活動への理解を深められるよう、様々なメディアで発信を行う。

活動：引き続き、財団の活動や入域料の収受状況をお知らせする季刊誌の発行を行っています。今期から竹富島に訪れた方にも見ていただけるよう港の待合所にも設置しました。また竹富町からの広報支援でJTA機内誌「coralway」11/12月に1P広告を掲載いただいています。入域料の返礼品はデザインのマイナーチェンジをくり返しながらか竹富島方言ステッカーをお渡ししつつ島内外の方々から頂ける草玩具やポストカードをプレゼントしています。竹富港に設置した広報用のホワイトボードには新たに「動物を見に竹富島を歩こうMAP」を掲示し竹富島の生態系の周知を行っています。



Action

ホームページによる周知・広報

島の現状活動のPR③

目的：定期的な更新でホームページを見たくなるような仕組みづくりを目指す。また日本語以外での多言語表記を行う。さらにはホームページ以外の媒体での発信も図る。

活動：財団ホームページ内では定期的な活動レポートの更新を行うとともに季刊誌がHP上でも観覧できるようにしました。また、島外からの返礼品寄附などがあった場合の紹介もHP上で行っています。

財団インスタグラムでは財団の活動報告をはじめ島の生態系や返礼品紹介、コロナや種子取祭などにより大規模な観光事業者の休業がある場合の案内を発信しています。また地域おこし協力隊の応募促進などもインスタグラムを利用してします。

財団HP「季刊誌ページ」

2021年



vol.009号

2021年11月発行

○海洋ゴミステーション設置

財団インスタグラム

【公式】竹富島地域自然資産財団
竹富島は人口350名程度の小さな島。
その小さな島で2019年に立ち上げた竹富島財団の活動記録
を発信していきます！
[taketomijima.okinawa/](https://www.taketomijima.okinawa/)

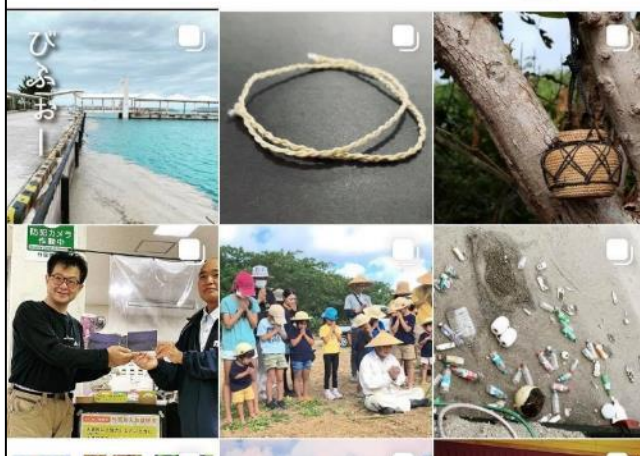
プロフィールを編集

広告ツール

インサイト

ショップを追加

ストーリーズハイライト



技術継承・担い手育成事業

島材活用技術継承・リーダー育成

伝統的建築技術の継承

目的：竹富島固有の町並みを生み出す伝統的な建物など。その建築技術を新しい世代に正確に継承する。

活動：国の重要文化財として登録されている旧与那國家住宅の瓦ぶきに使用する粘土作りを昨年度に引き続き行いました。毎日の補水を行いながら定期的な混ぜ込み作業と雑草の除去をしました。8月には竹富小中学校の生徒と一緒に土踏みや理事長による「なぜ竹富はかわらぶきの家となったか」についてのレクチャーを行いました。12月には修復作業が完了し竹富町教育委員会への引き渡しが行われ、令和4年4月より旧与那國家住宅の指定管理者委託を財団で受ける予定です。



Action

調査研究モニタリング事業

地域自然環境保全等事業の効果検証モニタリング

島の子供への環境教育

目的：島の環境が将来を守られていくために、島の子供達へ「環境保全」の意識を根付かせる教育活動を行う。

活動：農耕文化が希薄になりつつある現代において、次世代を担う子供達に島の農耕に触れてもらう機会を作ろうということで、竹富小中学校敷地内の畑で農作物の植え付けを実施しました。竹富島での作物植え付け収穫時期一覧「竹富島の24節気農暦」を使って約100㎡の畑に粟、大豆、小豆、緑豆、ゴマ、落花生、きゅうり、トマト、サツマイモを植え付けました。



調査研究モニタリング事業

陸域生態系の調査研究

島の生態系研究調査

目的：島の生態系の多様性の保つため、維持管理を行う。そのための調査を行う。

活動：竹富町教育委員であり生物学者である島村賢治氏の協力の元、花城御嶽やコンドイ浜周辺における生態系調査を実施しました。そのなかで絶滅危惧IAに属するリュウキュウチシャノキを発見。「極めて貴重で天然記念物として保護すべき」とのことで、GPSにより位置情報を記録し、その後もヤシガニやシロアリの巣、ヤエヤマヒトツボクロという蘭の一種など豊かな生態系を見ることができました。訪れる時間帯によっても見られる生物が変わるとのことで、今後も調査を継続していきます。



Public Relations

島内季刊紙（B4）

ペットボトルキャップの回収にご協力ください

ご家庭で出たペットボトルのキャップを集めるとビーチクリーン用のポリバッグに生まれ変わります

財団法人（旧ビジターセンター）前に回収ボックスを設置していますのでご家庭で出たペットボトルキャップのリサイクルにご協力をお願いいたします

※この循環再生プロジェクトを利用して「竹富町指定ゴミ袋」の製造を削減中です

一般社団法人 竹富島地域自然資産財団
〒907-1101 竹富島八重山町自然教育センター207-1
TEL:0980-83-2800 FAX:0980-83-2801
MAIL:info@skatorjima.com

て—どうん JOURNAL

2022 Fall Vol.10

竹富島地域自然資産財団 季刊紙

01 やいまSDGsシンポジウム

八重山でサステナブル（持続可能）な事業、活動に挑戦している個人や団体が一堂に会したイベント「第1回やいまSDGsシンポジウム～THE EARTH VOICE」がANAインターコンチネンタル石垣リゾートにて開催されました。会場には石垣市長をはじめ多くの行政関係者や関係者、環境基金に関心を持つ市民などが訪れました。前回は環境の保護やエネルギーカシカシオンに集まるほか、展示ブースを設け、来場者やオンライン視聴する人びとに向けて、活動を伊勢しました。財団の代表としてシンポジウムに登壇した理事長は、財団設立の意義や入島料導入の経緯を説明し、「我々、竹富島の人間は事業を営む人と同じく島長として考えられています。どうか共にこの美しい島を守っていただく」と熱く語るなど、会場から大きな拍手が湧き起こりました。

02 麦の植え付け

小学校や保育所に通う子どもたちと保護者が参加して、麦の植え付けが行われました。まず全員でタネをまく場所の小石を取り除き、1列に並び、背割線まで指先で揃けて敷きながら、子どもたちは真剣な表情で説明を聞き、準備が整った子に揃って敷きながら、全員で作業を行いました。タネまき後は、前理事長さんが履付けの三つ紐を手に、全員で産作を祈願しました。前回は降り雨のある「もち麦」という種類の麦を植えたのですが、環境に合わない全体的に実入りが少なく不作だったため、今回は以前栽培し最作であった「さいたま」を採用しています。

03 修学旅行に伴うゴミ拾い

季節柄、修学旅行など団体で集まる観光客の方が増えていきます。それに合わせて意識のゴミも増える機会にあります。そこで財団理事長とドリーム観光のスタッフがコンドミニアムやカシカシのスタッフさんでコンドミニアムやカシカシ、西橋、船橋、集落内のゴミ拾いを行っています。

04 南十字星ポストカード

入島料の支払いで使ってくださいと長野県在住の川口浩さんから竹富島の西橋から撮影した南十字星のポストカードを200枚いただきました。コンドミニアムの南十字星が取りこま美しい写真がポストカードになっています。この場を借りて御礼申し上げます。

05 2021年度入島料収受実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
売数	2116	1188	1081	2481	2363	1887	1893	2954	2984	1403

■ 入島券売数 2116 1188 1081 2481 2363 1887 1893 2954 2984 1403

（2022.2月発行）

ホワイトボード@かりゆし館

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

今週の保全活動

- ・ビーチクリーン
- ・集落内のゴミ拾い
- ・栗の収穫
- ・フクギの植林

竹富島財団の日々の活動は

公式HPやInstagramを
のぞいてみてください

公式HP Instagram

動物を見に、

竹富島を

歩こう

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団 編 (2021)

「入島料」へのご協力をお願いします

入島券（うづくみチケット）300円は

入島料
券売機

カウンター

にてお支払いいただけます

レッドテールトロピカルフィン
（島鳥、オキナワ）
島鳥の一種で、オキナワに生息する。オキナワの固有種で、オキナワの固有種である。オキナワの固有種である。オキナワの固有種である。

オウゴンマダガスカール
（海亀、オキナワ）
オウゴンマダガスカールは、オウゴンマダガスカールに生息する。オウゴンマダガスカールの固有種である。オウゴンマダガスカールの固有種である。

ブラウンノット
（島鳥、オキナワ）
ブラウンノットは、ブラウンノットに生息する。ブラウンノットの固有種である。ブラウンノットの固有種である。

ホワイトテールトロピカルフィン
（島鳥、オキナワ）
ホワイトテールトロピカルフィンは、ホワイトテールトロピカルフィンに生息する。ホワイトテールトロピカルフィンの固有種である。ホワイトテールトロピカルフィンの固有種である。

レッドテールトロピカルフィン
（島鳥、オキナワ）
レッドテールトロピカルフィンは、レッドテールトロピカルフィンに生息する。レッドテールトロピカルフィンの固有種である。レッドテールトロピカルフィンの固有種である。

オウゴンマダガスカール
（海亀、オキナワ）
オウゴンマダガスカールは、オウゴンマダガスカールに生息する。オウゴンマダガスカールの固有種である。オウゴンマダガスカールの固有種である。

ブラウンノット
（島鳥、オキナワ）
ブラウンノットは、ブラウンノットに生息する。ブラウンノットの固有種である。ブラウンノットの固有種である。

ホワイトテールトロピカルフィン
（島鳥、オキナワ）
ホワイトテールトロピカルフィンは、ホワイトテールトロピカルフィンに生息する。ホワイトテールトロピカルフィンの固有種である。ホワイトテールトロピカルフィンの固有種である。

財団機関紙「て—どうんジャーナル」
↓
ご自由にお取りくださいませ

Public Relations

竹富島入域料ガチャガチャ



Entrance fee capsule toy
入島料ガチャ

入島料へのご協力ありがとうございます。
いただいた入島料は竹富島の環境保全活動等や
自然環境トラスト活動に利用されます。

竹富島の海で漂着ゴミ拾う → ハサミで切って紐かくする → 溶かして虫に流し込み仕繕 → 完成!

領収書

入島料 ¥300

年 月 日

一般財団法人
竹富島地域自然資産財団

Entrance fee capsule toy
入島料ガチャ

入島料へのご協力ありがとうございます。
いただいた入島料は竹富島の環境保全活動等や
自然環境トラスト活動に利用されます。

竹富島のタネ

島ニンジン 長命草 島 菜 島唐辛子 島らっきょう つるむらさき 島かぼちゃ 秘密のタネ

領収書

入島料 ¥300

年 月 日

一般財団法人
竹富島地域自然資産財団

Public Relations

新規返礼品

竹富島方言ステッカー【改訂版】
(2022.03～)



入島料へのご協力ありがとうございます



ホームページ インスタグラム

TAKETOMIJIMA ZAIDAN

入島料を使用した保全活動の様子は
財団InstagramやHPよりご覧ください



一般財団法人
竹富島地明自然資産財団

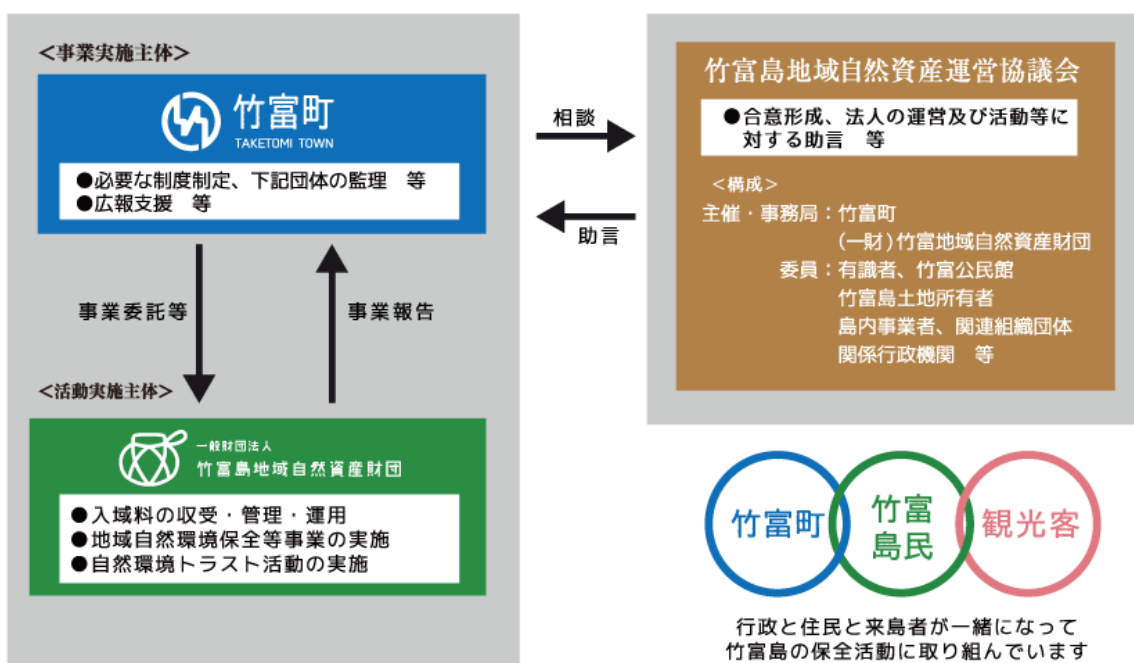
この他にも島民の皆様から多数の返礼品を頂いております

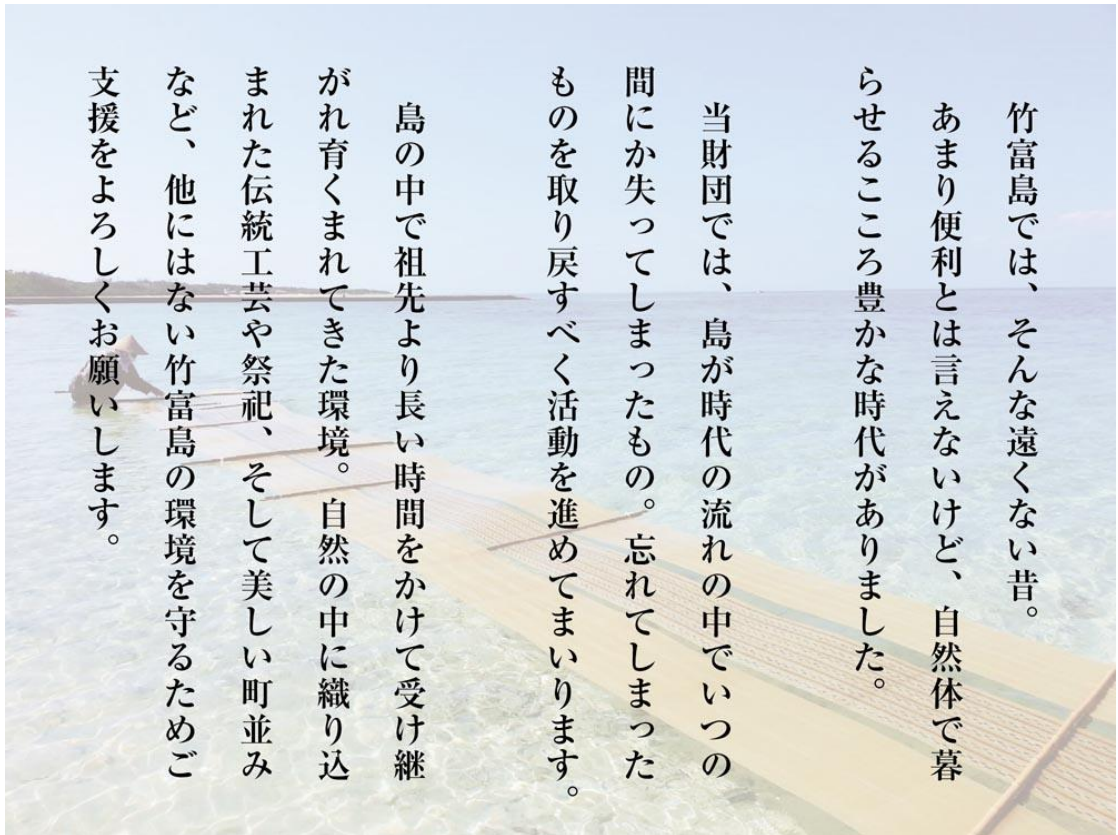


組織概要

名称	一般財団法人 竹富島地域自然資産財団
設立	2019年5月30日
所在地	〒907-1101 沖縄県八重山郡竹富町竹富207-1
目的	この法人は、『竹富島憲章』を遵守し、竹富島地域自然資産保全区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進のために活動し、島民の心身の健全な発達及び自然環境と文化の保全に寄与し、地域社会へ貢献することを目的とする。
役員	<ul style="list-style-type: none">● 理事長 : 上勢頭 篤● 常務理事 : 市瀬 健治 / 水野 景敬● 理事 : 井上 寛文 / 上勢頭 輝 / 上勢頭 巧 上勢頭 立人 / 内盛 正基 / 大浜 信一郎 前本 由貴子● 評議員 : 内盛 正聖 / 内盛 良枝 / 大山 榮一 島仲 彌喜 / 野原 健● 監事 : 阿佐伊 拓 / 大 政司

※50音順





竹富島の環境保全活動のために 寄付をお願いします

寄付の方法

下記申し込みフォームまたは、寄付申込書でお申し込み後、当財団指定の銀行までお振込をお願いいたします

寄付申し込みフォーム	https://taketomijima.okinawa/dons/donsform
FAXまたは郵送での申し込み	https://taketomijima.okinawa/wp/media/format.pdf
お支払い方法	銀行名 琉球銀行 支店名 [店番号] 八重山支店 [703]
	口座種別 / 口座番号 普通預金 / 1020723
	口座名義 <small>ザイ) タケトミジマチキセシサンサイダン</small> 一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

